

お蒸し暑い日が続いていますね。子どもたちは、暑さに負けずにお部屋の中を元気に動きまわっています。成長も見られ、ずりばいやハイハイ、つかまり立ちや一人歩きができるようになりました。まだ、動きが不安定なので転倒などに気を付けてながらケガをしないように見守って保育を行っていきます。これからも保護者の皆様と成長を見守り喜びを共感したいと思えます。離乳食も全員が食べるようになりましたがひよこ組の子どもたちは食欲旺盛で「ごちそうさま」をして椅子から降りると、「まだ食べたいよ!」と言わんばかりに声を発します。おかわりは、食べるようにしていますが満腹感はまだ未熟ですので、大人が見極めをすることが大切だと思います。ご家庭でも調整してあげてくださいね。

まだまだ暑いので水分補給や休息をとり、この夏をのりきりたいと思えます。

今月のねらい
水あそびや沐浴をしながら暑い夏を快適に過ごす

8月うまれのおともだち
20日 ながさわ ゆいな ちゃん
22日 はった おうしろ うくん
お誕生日おめでとうございます!!

赤ちゃんの熱中症の特徴
赤ちゃんは、体が小さく体温調節がうまくできないので、熱中症に弱いと言われています。また、初期症状である「のどが湯いた」と訴えることができません。頬が赤く体に触れると熱い、母乳やミルクをいつもより飲みたがる、尿が少ない(おむつのぬれが少くない)、何となく機嫌が悪い、元気がない、といった症状から熱中症では?と考えることが重要です。

熱中症の予防法
体調に気を配りましょう。「早寝・早起き・朝ごはん」の実践です。ご飯・水分をしっかり摂り、エネルギー補給後に活動しましょう。昼食後は、炎天下への外出を避け体力を温存しましょう。室温は、26~28度を心がけましょう。外出時は、帽子をかぶせて直射日光を避けベビーカー用の保冷シートを使ったり、保冷剤をタオルに巻いて背中に当てましょう。

どんなケアをするか
冷却が一番! まず体を冷やします。木陰やクーラーの効いた涼しい部屋へ移動し、衣服を一枚ぬがせてゆるめ風を送ります。冷やしタオルや保冷剤で首回りや脇といった体表近くに太い血管が走る部位を冷やすこともよいです。ぬるま湯を霧吹きでかけたり、28度くらいのシャワーをかけて扇風機をまわし気化熱を利用して体を冷やします。

おねがい
持ち物には名前(き)の記入をお願いします。衣服やタオルに名前がなかったり、うすくなっているのが見かけられます。お忙しいとは思いますが、再度確認していただき記入をお願いします。